

第23回青年対策交流集会に参加して

全港湾東北地方ひたち支部青年女性部

副部長 大亀 慶太

第23回青年対策交流集会は、鈴木誠一執行委員長のオルグから始まりました。最初の挨拶で今回の春闘は値上げに見合った賃金を取りに行くと言う事を聞いて、物価の上昇や電気代の値上げにより生活に不安を抱えていたので安心しました。私も今回を逃したら今後の賃上げはもっと難しくなると思います。今回はどんなに時間が掛かっても要求額は絶対に取りに行かなければならないと思いました。全港湾が賃上げをしないで誰がやるのだと思っていましたので、全港湾の委員長から賃上げの意気込みを直に聞けてとても安心しました。

私の働く港でも実際におきている問題ですが、若い人が港湾の仕事を選ばなくなっています。今の若い人はお金を稼ぐ事よりも休みが欲しいと言う人が増えています。船が入って来たら作業を消化しなければなりません。そのため、港湾の仕事は時間外労働、休日出勤が当たり前にあります。その分給料に反映されるのでいいと私も今までは思っていました。最近では将来に不安を覚える事もあります。今はたくさん働いてお金を稼ぐ事が出来ていても、もし体を壊したら、もし仕事が少なくなったら、今までのように稼ぐ事は出来なくなってしまうからです。将来に不安を覚えて転職をする仲間もいます。若い人も港湾の仕事を選ばなくなっています。このままでは港で働く人はいなくなってしまうのではないかとも思います。そんな事を思っていた中で鈴木誠一執行委員長から新卒の採用賃金を上げてあげたい。その為にはまず賃上げしなければならない。魅力ある港湾を作りたいというお話を聞いて感銘を受けました。自分が不安に思っている事が問題として取り上げられて嬉しく思いました。これから全国のみなどとより良い環境を作って行く為に頑張っていこうと思いました。

二日目には真島執行委員長のオルグを受講しました。地域運動に力を入れてやって来られた方で地元から原発を反対運動で追い出すという凄まじいバックボーンを持つ方のお話はとても刺激的でした。私も東海村出身で地元には原発があります。原発に恩恵を受けて育ってきた身ではありますが、福島原発事故があった被災地の現状を実際に見た時に、核と人類は共存出来ないという事を目で見て、肌で感じました。原発事故は絶対に風化させてはダメなのです。政府はみんなが原発事故を忘れてきた事をいい事に原発再稼働を押し進めようとしています。電気料金の大幅な値上げも原発再稼働劇場の一つであると私は思います。政府に騙されないで欲しいです。もし原発が再稼働してまた原発事故が起こったら私達は二度と家に帰れなくなってしまうのです。東海村の原発は老朽化原発で既に稼働から40年の期限を迎えています。それなのに運転期間延長して再稼働をしようとしているのが現状です。避難計画もずさんなもので、到底現実的なものではありません。その為

には地元が頑張っって反対していかないとならないのです。

その中で今回の青年対策交流集会でフクシマ連帯キャラバンについて取り上げて貰って全国の仲間と原発事故の事やキャラバンの事について話し合うことができ、何よりみんなに知って貰う事が出来たのが嬉しく思いました。

今回の青年対策交流会議に参加して真島委員長、鈴木誠一委員長のお話を聞くことが出来て本当に勉強になりました。

また全国の仲間とも話す事が出来て、どこの港もみんな同じような悩みを抱えていて、困難を乗り越えようと考えていて、とても刺激を受けました。全国の仲間とこれからより良い魅力的な港湾を作っていきたいと思ました。

久しぶりにみんなで集まって飲むお酒は美味かったです。まさに【団結は夜に生まれる】でした。横の繋がりをしっかり作ってこれからも頑張っって行きたいと思ました。次は若手をいっぱい連れて行きたいと思ます。下の世代にも全港湾の輪が繋がっていくよう頑張っって行きます。